

6 浮気なサリー・ブラウン

古いバラッド

若者ベンはナイスガイ
大工仕事がベンの生業^{なりわい}
恋の相手はサリー・ブラウン
貴婦人に仕えるメイドさん

ある日 二人は散歩に出かけ 5
強制徴募の水兵たちに襲われた
サリーは気を失い
ベンは奴らに捕まった^{つか}

ボートスウェイン
水兵長が
聖者も真っ青の卑猥なセリフ 10
「女の気絶は見せかけで
気持ち高ぶる悶絶の振り

姉ちゃんよ 頭を上げな
奴と俺とどっちが美味いか 食ってみな^{うま}
あんたの彼氏が船に乗れば 15
美味い水兵長に育ててやるぜ」^{スウェイン ポート}
^{うま ポートスウェイン}

寄ってたかって女をなぶり
女の彼氏を連れ去った
意識が戻った女が気付けば
悶絶してたのは自分だけ 20

「あの人は行っちゃったの 行っちゃったの」
女は叫んで 激しく泣いた
「だったら あたしは水辺に行って
姿が見えなくなるまで見送るわ」

わたしもり
渡守が近づいて 25
「お嬢さんや
そんなに泣き続けると
涙で海が溢れるぜ」

「ああ 恋人^{ボウ}ベンを奪ったの
老いぼれ装甲艦に乗せたの」 30
女の悲しみが またどっと溢れ出た
まるで発破をかけられたように勢いよく

「奴さんが連れて行かれた先は
優男^{テンダーシップ}船だ 心配するな」と渡守^{わたしもり}
「優男^{テンダーシップ}船ですって 35
ほんとは難儀^{ハードシブ}船のはず」とサリー・ブラウン

「ああ 今こそ人魚^{マーメイド}になりたい
そうすれば 惚れた男の後を追えるのに
でも ああ あたしは雌^{メス}の魚でも魚売り女^{フィッシュウーマン}でもなく
泳ぐのはとても無理 40

乙女座^{ヴァージン}でも天秤座^{スケイルズ}でもないあたしは
処女^{ヴァージン}でもないし 鱗^{スケイルズ}も無いの
だから 酷^{ひど}い星の元に生まれたことを呪い
残酷^{ウエイルズ}世間を歩いて渡るの」

さてベンは はるか地球の裏側まで航海して 45
たくさんの土地を回ってきた
やがて二年が過ぎて 船は港に戻り
帆^たが畳まれた

サリー・ブラウンがどうしているかと
ベンがやって来てみると 50
サリーには別のベンがいて
そいつの洗礼名はジョン

「おお サリー・ブラウン サリー・ブラウン
何という裏切りを
今までたくさんの微風^{そよかぜ}に当たってきた俺は 55
こんな突風^くを食らったことはない」

それから タバコの箱の文字に目をやって
深いため息ついて
手にしたパイプに目を落とすと
ひーひー言って泣くのであった 60

それから「すべて良し」をうたわんと
いくら頑張っても うたえない
気でも狂ったか 首を回して
弁ビッドテイル髪ビッドテイルを捻り煙草よろしく噛みながら 息絶えた

バース生と共にある死を己がバース船室で迎えたベンは
四十しじゅうそこらの盛り時
水兵仲間が 墓掘り男に奴の死を告げ
墓掘り男が 弔いの鐘を鳴らしてやった

65

(山中光義訳)